

がんばる  
皆さんを応援!

## (有)八尾興業

「有限会社 八尾興業」は、昭和44年に創業し、宅地造成業からスタートしました。富山市の八尾町や婦中町など旧婦負郡を主な対象エリアとして事業を拡大し、現在は住宅の解体をメインにさまざまな解体や不要物の撤去作業を行っています。2代目社長の中川正明さんと、取締役で息子の武秀さんにお話を伺いました。

### ① リフォームする家はわずか

創業者は正明さんの父・正作さんで、昭和50年ごろに正明さんが跡を継ぐと、事業内容は宅地造成業から建物解体業へ移っていきましました。正明さんはこう話します。

「空き家対策のための法律が厳しくなり、空き家を放置して危険な状態にしておけないということになりました。放っておくと、例えば漏電して火災になるなどして大変なことになるります。だから解体作業の依頼は次から次へとあります。家を建ててもリフォーム



▲木造住宅の解体現場

ムして何代にも渡って住み続けるケースは少ないのが現状です」

### ② 平成15年に焼却炉設置

解体の対象となる建物は9割が住宅です。分別解体が義務付けられ、がれきの処理は国が定めた法律に沿って行われます。平成に入ったころから、燃やすことへの制限やリサイクル、アスベスト対策、廃棄物の処理の仕方、騒音、解体作業中の安全など、さまざまな観点から、解体業が厳しい規制を受けるようになりました。そのようなこともあったため、八尾興業は平成15年に焼却炉を設置しました。

「先代のころは、壊した廃材を簡易な施設で焼却するのが一般的でしたが、30年ほど前からダイオキシンの害などが問題となりました」



▲自社の焼却炉

### ③ 石膏ボードの再利用

解体した後に出るがれきは、木材ならば燃やすことができます。瓦は細かく砕いて瓦チップにし、コンクリートも細かく砕いて道路の下の砂利になります。鉄くずはリサイクルします。しかし、燃やすこともリサイクルもでき

ないものが、一度使用された「解体系廃石膏ボード」です。耐火性を求められる石膏ボードは、その性質上燃やすことはできません。未使用の切れ端などはリサイクルに回すことができますが、壁紙を貼るなどといった使用された物は不純物が混じり、その殆どは埋め立て処分するしかありません。武秀さんは石膏ボードをテーマに、日本商工会議所青年部「第16回ビジネスプランコンテスト」に応募し、奨励賞を受賞しました。そのプランは「ハイブリッドボードの製造・販売」解体系廃石膏ボードの永久リサイクル」と題し、厄介な石膏ボードを地元で再利用するアイデアです。どんな内容なのでしょう。

### ④ 地域の信用が肝心

正明さんは、地域の皆様に支えられ、社会に貢献する企業であり続けたいと考えています。また、これまで、慈善事業にも力を入れてきましたが、そこにはこんな思いがあります。

「解体業というのは大事な仕事なのですが、ほこりや振動、騒音を出して迷惑をかけます。だから、地域の信用を得ることが肝心だと思ってやってきました。息子の代には、また違ったものの考え方があると思いますが、社会貢献への思いは変わらないはず」

近年は企業倫理が求められる、持続可能な社会を実現する一助となるようになってきました。だからこそ武秀さんの思い描いたプランは、実現させたい夢でもあります。親子二代ががっちり連携する八尾興業を、当所はこれからも応援していきます。



▲日本商工会議所青年部「第16回ビジネスプランコンテスト」の表彰式 左が三村日本商工会議所会頭、右が武秀さん

#### 有限会社八尾興業

##### 主な事業内容

- ・解体工事業
  - ・産業廃棄物収集運搬業
  - ・産業廃棄物処分業
  - ・土木工事業
- など



富山市八尾町黒田4395-1  
☎076-455-1250  
URL <https://yatsukogyo.jp/>